

本連携取組事業説明

大学教育連携センター長 木村 宏

第3回岡山オルガン 連携評価委員会

(2) 本連携取組事業説明

- 事業概要について
- 連携取組事業評価について

大学教育連携センター
木村 宏

事業概要について(P29)

- 平成21年度大学教育充実のための戦略的連携支援プログラムの選定事業「『岡山オルガン』の構築 —学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—」
- 本事業の特徴：
 - 平成18年～20年の活動実績をもった大学コンソーシアム岡山の連携および事業活動の拡充・強化
 - 岡山県下の各大学が個別に実施している優れた取組を、互いに連携することで、各取組を発展・充実させ、地域活性化の担い手となる人材育成に資する総合的教育充実事業
- 本事業の目標：
 - 学士力、社会人基礎力、地域発信力の向上を図る
 - これらを融合させることで地域創生型の人材を育成する
- 具体的課題
 - ライブ型およびVOD型遠隔教育方式を採用した教育共有の実現
 - FD・SD活動の共同実施
 - キャリア形成教育の共同実施と指導者グループの育成
 - 大学連携による地域創生・環境教育に関わる新しい活動の創出
 - 地域経済界との連携による人材育成教育 など

全大学が特色を生かしつつ、積極的に本事業に取り組み、新たな地域貢献を実現させる。

連携取組事業評価について(P1～P9)

【評価の目的】 本連携取組事業の各々の取組を年度毎に振り返り、今後の継続的事業展開だけでなく、さらに発展的な取組へとつなげ、岡山県内の大学教育・学生サービスの質的向上を図ることを目的として点検・評価を行います。

これを通して、成果や課題を連携校すべてにフィードバックし、各大学の特色を踏まえた上での大学教育充実に向けた改善を図る契機として活用します。

今回の評価は、補助期間の最終年度に当たるので、3年間の活動総体に対する評価も行います。

【実施期間】

平成24年1月20日～平成24年1月31日

【評価観点】

(1) 事業取組評価

- ① 本連携取組事業の内容が目的に沿って適切な企画・実施がなされているか
- ② 大学間の連携が適切に図れているか
- ③ 本事業のために導入した設備等が目的達成のために有効に活用されているか

(2) 地域貢献評価

- ① 産官民や高校との連携が適切に図れているか
- ② 地域の担い手となる人材育成につながる取組となっているか

連携取組事業評価について(P1からP9)

【評価基準】

- 4:十分に満足できる(期待する効果が十分に見られる)
- 3:おおむね満足できる(期待する効果はあるが、未到達の部分もある)
- 2:努力を要する(期待する効果が見られない)
- 1:問題がある(期待する効果へつながらよう計画がなされていない)

【点検項目別評価】

- | | |
|--------------------|----------------|
| (1) 共通計画 | 5 事業項目(事業⑤は不要) |
| (2) 学士力育成のための計画 | 5 事業項目 |
| (3) 社会人基礎力育成のための計画 | 4 事業項目 |
| (4) 地域発信力育成のための計画 | 3 事業項目 |

【総合評価】

平成23年度の事業全般に対する総合評価

【その他のコメント】

全般に関する特記すべき事項

【本事業3年間を通しての総合評価】

補助期間(3年間)全体を通じての本事業の実績に対する総合評価

【記入書式等】

書式ファイル: 添付CD内にMS-Wordファイルとして収納

記入要領: 配布文書に記載

評価報告書の作成について(P3、P7～P9)

- (1) 全連携評価委員の方は評価報告書をご提出下さい。
- (2) 「本連携取組事業の目的」および「評価の目的」をご理解いただき、「評価基準・評価観点」に従い、評定およびコメントを記載して下さい。
- (3) 評定は各項目(17事業毎)に「評価基準」の4段階評価をお願いします。
- (4) コメント欄には「優れている事項」や「今後の事業継承においてさらに改善すべき事項」等をご記入下さい。
- (5) 「総合評価」および「本事業3年間を通しての総合評価」もご記入下さい。
- (6) 「その他のコメント」は取組全体に関するご意見をご記入下さい。
- (7) 記載する行数や頁数は必要に応じて追加して下さい構いません。
- (8) 記入ファイルは添付のCD上のWordファイル「連携取組事業評価報告書フォーム.doc」をご利用下さい。
- (9) 提出先： 大学教育連携センターまでメール添付でお送り下さい。
e-mailアドレス： info@okayama-organon.jp
- (10) 提出期限： **平成24年1月31日(火)17:00**

平成23年度連携取組内容および3年間の成果報告

共通計画について

(①②③④⑤⑥⑧関係)

大学教育連携センター長 木村 宏

第3回岡山オルガノン 連携評価委員会

(3) 平成23年度連携取組内容および 3年間の成果報告

■共通計画とVOD型遠隔教育の提供 ①②③④⑤⑥⑧関連

大学教育連携センター 木村 宏

大学教育連携センターの報告内容

■ 共通計画

- ① 大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ② 「将来構想委員会」の開催
- ③ 「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ④ 「岡山オルガノン事業報告会」の開催
- ⑤ 平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」への参加
- ⑥ 「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成

■ VOD型遠隔教育の提供

- ⑧ 新規VOD科目のコンテンツ制作、
8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施

① 大学教育連携センターおよび各オフィスの運営

(1) (2) 大学教育連携センターおよび各オフィスの役割と組織

名称	役割	構成員
大学教育連携センター	事業全体の統括・VOD型遠隔教育の配信	6名(4名)
岡山大学オフィス	学士力育成取組・FD/SDと単位互換教育の取りまとめ	3名(2名)
岡山商科大学オフィス	地域発信力育成取組・ライブ型遠隔教育の取りまとめ	3名(2名)
中国学園大学オフィス	社会人基礎力育成取組・実践的キャリア指導チームの構築	3名(2名)

()内は補助金による被雇用者数

平成23年4月より大学教育連携センターのコーディネータが交代

☆3年間の経過

- ・H21年7月戦略GP採択決定:
岡山理科大学に大学教育連携センターを設置
3拠点大学にサテライトオフィスを設置
- ・学外連携推進室の1セクション: 4名(2名)体制で発足⇒6名構成
- ・大学教育連携センター運営委員会設置

① 大学教育連携センターおよび各オフィスの運営

(3) 会議開催

- コーディネータ会議
 - ・岡山オルガノンの事業推進の円滑化を図る
 - ・年間9回(平成23年度)
- 大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議: 年2回
- 大学教育連携センター運営委員会: 年2回
- e-Learning運営委員会: 年2回

(5) 補助金適正化に向けた取組

- 平成22年度: 補助金執行に関する取組
 - ・中間監査,
 - ・会計経理担当者会議
- 事業仕分けの影響
- 平成23年度: 補助金執行状況調査(7月, 10月)
 - ・実績報告書作成へ向けて

① 大学教育連携センターおよび各オフィスの運営

(4) 情報発信充実へ向けた取組

- **ホームページの充実・活用**
サテライトオフィス間の情報共有
連携校からの情報提供
大学教育連携センター内の情報共有
- **プロモーションビデオの公開・活用**
平成22年作成
取組紹介、単位互換制度の説明、
学生参画型活動の紹介
- **メールマガジン「岡山オルガノン通信」の定期発行**
年間12回発行
登録会員数：235名



第3回連携評価委員会

5

② 「将来構想委員会」の開催

- 「岡山オルガノン」の事業は、構想段階より大学コンソーシアム岡山の連携事業を発展させることを目標とする。
- 本事業の補助期間終了後には大学コンソーシアム岡山へ事業継承することを前提とする。
- 平成22年度9月には、岡山オルガノン及び大学コンソーシアム岡山の両者において、協力して事業継承の協議を行う「将来構想委員会」の設置を決定。
- 平成23年度に入って8回にわたって会議を開催し、平成24年度以降の事業継承の原案を策定した。
- 重要な事業の継承、会員校による独自の財政負担案を決定。
- 大学コンソーシアム岡山代表者会議での最終判断待ち。(1月20日)



第3回連携評価委員会

6

将来構想委員会の審議経過

会議	日付	審議内容等
準備会議	H23年1月26日	将来構想委員会の設置に関わる事項の確認と決定
第1回	H23年2月16日	事業の統合、遠隔教育の継承体制について検討
第2回	H23年3月4日	事業継承に伴うランニングコストおよび経費負担の検討
第3回	H23年4月19日	事業の再編成、経費負担、事業継承体制について検討
第4回	H23年5月17日	事業の再編成、経費負担、事業継承体制について検討
第5回	H23年8月8日	継承組織、経費負担について検討
第6回	H23年9月5日	事業継承原案(第1版)を決定、岡山オルガノン代表者会議に提案するが、大学コンソーシアム岡山の事業全体との整合性について見直しが求められ、保留となる。
第7回	H23年11月1日	原案(第1版)の予算、組織、スケジュール項目の再検討
第8回	H23年11月25日	事業継承原案(第2版)を決定。大学コンソーシアム岡山企画会議、岡山オルガノン代表者委員会、大学コンソーシアム岡山運営委員会にて第2案を了承し、大学コンソーシアム岡山の平成24年度事業計画および予算案に反映させた。

第3回連携評価委員会

7

大学コンソーシアム岡山への事業継承案

継承する事業

平成24年～26年までの事業内容を決定。

(1) 遠隔教育事業

- ライブ型とVOD型遠隔教育の継続実施
ライブ型科目13科目、VOD型科目17科目の配信を予定

(2) 共同FD・SD事業

- FD活動の情報交換を行うイベント等の実施
- 社会人向け教育活動である「吉備創生カレッジ」の特別講座として共同SD事業を実施

(3) 地域活性化事業

- 地域活性化イベント「日ようび子ども大学」を継続実施

(4) 学生交流事業

- 「エコナイト」事業の継続実施

(5) 社会人基礎力育成事業

- 「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

第3回連携評価委員会

8

③「岡山オルガノン代表者委員会」の開催

(1) 第1回岡山オルガノン代表者委員会 (平成23年5月10日)

- 平成23年度の事業計画および実施方針の決定
 - 事業の継承可能性を配慮した事業展開
 - 遠隔教育の提供科目の充実と受講生への周知

(2) 第2回岡山オルガノン代表者委員会 (平成23年12月6日)

- 平成23年度実施事業の報告
- 将来構想委員会の審議結果報告
- 事業継承原案の承認
 - 継承する事業案
5事業に集約
 - 経費負担案(総額)
事業推進費(年額)
4,023千円
システム維持費(年額)
5,226千円



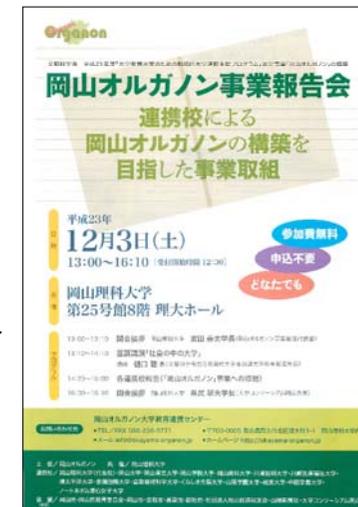
第3回連携評価委員会

④「岡山オルガノン事業報告会」の開催

(1) 岡山オルガノン事業報告会概要

「連携校による岡山オルガノンの構築を目指した事業取組」

- 平成23年12月3日(土)
- 岡山理科大学 理大ホール
- 基調講演
「社会の中の大学」
文部科学省高等教育局大学振興課
大学改革推進室長 **樋口 聡 氏**
- 各連携校報告
15大学の担当者による「岡山オルガノン」事業への取組と成果を報告
- フロアディスカッション



第3回連携評価委員会

④「岡山オルガノン事業報告会」の開催

(2) 広報活動

- ホームページ上での広報
- チラシ・ポスターを地域の関係機関および連携校に配布
- プレスリリース
- 「岡山県生涯学習大学連携講座」として登録

(3) 実施結果

- 連携校の教員(45名)、職員(56名)、学生(7名)、一般参加者(2名)の合計110名が参加



第3回連携評価委員会



⑤ 平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」への参加

- 平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」については、諸般の事情により中止する旨の連絡が文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室より届いたので、**今年度の本取組は計画のみ**となった。
- 補助期間終了後の継承形態や共同FD活動の進め方等についての情報収集を行うため、大学教育連携センターより連携校に対し、他の先進的事業取組を展開している大学等への視察を推進し、また本事業に関連のあるフォーラムの案内等を行い、有効に補助金を執行するよう連絡した。

第3回連携評価委員会

⑥「連携評価委員会」の開催 最終報告書の作成

(1) (2) 最終報告書の作成

平成21年9月～平成22年9月 中間報告書として刊行済
平成22年9月～平成23年9月末 事業報告書として発行準備中
平成24年3月末 最終報告書・全資料編としてCDを発行予定

(3) 最終報告書の内容

本編は以下の内容とし、約190ページからなる。

目次
はじめに
『岡山オルガノン』の構築について
第1章 連携取組概要
第2章 組織体制と環境整備
第3章 学士力育成のための取組
第4章 社会人基礎力育成のための取組
第5章 地域発信力育成のための取組
第6章 外部評価
第7章 戦略的大学連携事業総括
第8章 各連携校取組
おわりに



第3回連携評価委員会

13

⑥「連携評価委員会」の開催 最終報告書の作成

(4) 連携評価委員の選出（平成23年5月に委嘱）

- 委員構成
 - 外部評価委員 産学官の有識者 6名

立命館大学教授	木野氏
岡山県・県民生活部長	浅野氏
岡山教育委員会・教育長	竹井氏
岡山経済同友会・代表幹事	中島氏
山陽新聞社・代表取締役社長	越宗氏
岡備ホールディングス・代表取締役社長	小嶋氏

- 連携校代表者 学長 15名

(5) 第3回連携評価委員会（平成24年1月20日開催）

- 委員会 プレゼンテーション形式で成果を報告
- 評価報告の作成 平成23年1月21日～1月31日
- 評価報告書の作成 平成23年3月末に公表

第3回連携評価委員会

14

⑧ 新規VOD科目のコンテンツ制作、 8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施

(1) VODコンテンツ制作

- 新規作成 6科目（平成23年度配信科目18科目中）
 - 前期配信科目 1科目
 - 後期配信科目 5科目
- 次年度向け作成 3科目
- 撮影・編集機材の一部導入
 - 事業継承と使用頻度の増加に対応するため、岡山理科大学からの借用機材を新たに導入した。



撮影スタジオ風景



スタジオ収録風景



編集作業

第3回連携評価委員会

15

遠隔教育受講者統計（平成22年度）

年度	区分	配信大学	科目名	岡大	県大	学院	商大	理大	医大	医福	理大	吉備	倉芸	作陽	山陽	就実	中国	清心	計		
平成22年	前期	ライブ	岡山商科大	経営学特殊講義Ⅰ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	
			川崎医科大	基礎環境医学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
				ライブ合計	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
		平成22年前期合計			3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
		後期	ライブ	岡山商科大	経営学特殊講義Ⅱ	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	倉敷芸科大			倉敷まちづくり実践論	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
			ライブ合計	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
	VOD		岡山理科大	アルゴリズム入門	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	2
			吉備国際大	スポーツ産業論	4	11	0	0	21	0	0	3	1	0	0	13	0	0	0	0	53
			川崎医福大	睡眠学	7	0	0	0	83	0	0	0	0	1	3	3	17	0	0	3	
VOD合計			12	11	0	0	104	0	0	3	0	2	4	3	34	0	0	0	178		
平成22年後期合計			21	11	0	2	104	0	3	3	2	4	3	34	0	0	0	0	194		
平成22年度合計			24	11	0	2	104	0	3	3	2	5	3	34	0	0	0	0	218		

VOD科目の単位取得率（参考値）

開講期	大学名	科目名	受講者数	単位修得者数	単位修得率%
H22後期	岡山理科大	アルゴリズム入門	8	5	62.5
	川崎医福大	睡眠学	117	92	78.6
	吉備国際大	スポーツ産業論	53	45	84.9
H23前期	岡山県立大	解析学Ⅰ	7	1	14.3
	岡山理科大	アルゴリズム入門	7	1	14.3
		インターネット入門	9	2	22.2
	くらしき作陽大	環境と社会	25	13	52.0
		音楽療法概論	33	13	39.4
合計			296	199	67.2

第3回連携評価委員会

16

VOD型遠隔教育受講者統計(平成23年度)

年度	期	区分	配信大学	科目名	岡大	県大	学院	商大	理大	医大	医福	理大	吉備	倉芸	作陽	山陽	就実	中国	清心	計			
平成23年度	前期	VOD	岡山県立大	解析学Ⅰ	0	66	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	5	0	0	73			
			岡山県立大	環境と社会	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	16	0	0	25		
			岡山理科大	インターネット入門	2	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	9		
			岡山理科大	アルゴリズム入門	1	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	7		
			くらしき作陽大	音楽療法概論	8	1	0	0	3	0	0	0	3	0	1	0	0	17	0	0	33		
			くらしき作陽大	食心理学	9	0	0	0	6	0	0	2	0	3	0	0	16	1	0	0	37		
			平成23年前期合計					24	73	0	0	9	0	14	0	5	2	0	56	1	0	184	
			後期	VOD	岡山商科大	パーソナルファイナンス	4	0	0	0	4	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	12
					岡山商科大	アルゴリズム入門	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	岡山理科大	インターネット入門			0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3		
	岡山理科大	環境と社会			1	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	1	9	0	0	15		
	岡山理科大	環境考古学			0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7	0	0	9		
	川崎医福大	睡眠学			8	0	0	0	43	0	0	7	0	0	2	3	21	3	0	0	87		
	環太平洋大	レクリエーション論			4	0	0	0	7	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	15		
	吉備国際大	スポーツ産業論			3	0	0	2	13	0	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	25		
	山陽学園大	現代中国論			2	0	0	0	7	0	1	2	0	1	0	0	2	0	0	0	15		
	就実大	日本人の思想	0	0	0	0	8	0	0	3	0	1	0	3	0	0	0	0	15				
		日本美術史b	0	0	0	0	5	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	9				
中国学園大		運動生理学	0	0	0	1	11	0	0	1	0	0	2	0	7	0	0	22					
平成23年後期合計					22	0	0	3	98	0	2	31	0	7	5	8	49	3	1	229			
平成23年度合計					46	73	0	3	107	0	2	45	0	12	7	8	105	4	1	413			

第3回連携評価委員会

17

⑧ 新規VOD科目のコンテンツ制作、 8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施

(2) 学習管理システム管理・運用

- 学習管理サイト「まなびオルガノン」(岡山オルガノン管理のWEBページ)
- 学習管理システム「Momotaro」(岡山理科大学開発システム)
- VODコンテンツ編集システム「StreamAuthor V-4」



第3回連携評価委員会

18

⑧ 新規VOD科目のコンテンツ制作、 8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施

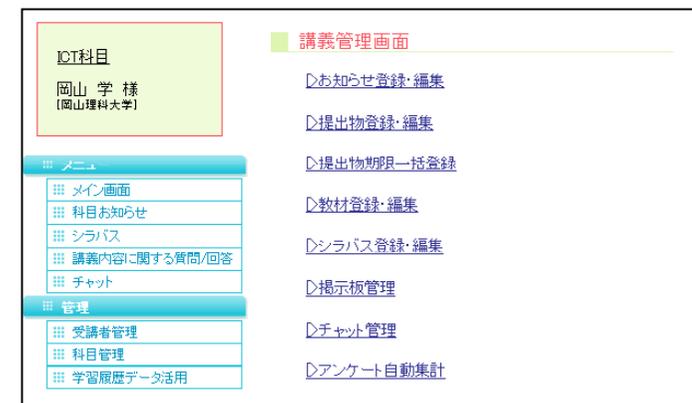


受講画面(開始ページ)

第3回連携評価委員会

19

⑧ 新規VOD科目のコンテンツ制作、 8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施



管理者画面で提供される機能(一部)

第3回連携評価委員会

20

⑧ 新規VOD科目のコンテンツ制作、 8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施

(3) ICT活用教材作成講習会(平成23年11月10日開催)

- テーマ: 「まなびオルガノンの効果的な活用について」
- 内容:
 - 「岡山理科大学における単位互換制度について」 大教連センター 木村宏
 - 「まなびオルガノンの基本操作とその活用方法について」 大教連センター 岡戸真理子
 - 「まなびオルガノンの特化した活用方法について」 岡山理大院生 井川真弓
- 参加者: 連携校教職員 28名



第3回連携評価委員会

21

3年間の成果

- 大学教育連携センターの機能維持が果たせたこと。
- 3サテライト・オフィスとの協力体制の下、連携校の協力を得て本事業がほぼ計画通り遂行できたこと。
- 各連携大学間の人的交流の機会が増え、岡山における大学連携の前進が実現できたこと。
- 短期間にも関わらず、ライブ型およびVOD型遠隔教育方式による単位互換教育が実現したこと。
- 実質2年間で32科目(年間)を配信し、平成23年度には延べ受講者が440名に達したこと。
- 遠隔教育の提供に直接かかわった教員数が50名に達し、教育の共同実施が実現できたこと。
- 補助金を活用し、遠隔教育に必要なインフラ整備が大きく前進できたこと。
- 他地域のGPや大学コンソーシアム組織との交流が深まったこと。
- 岡山オルガノンの事業継承の構想がまとまったこと。

第3回連携評価委員会

22

今後の課題

- 大学連携体制のさらなる発展
- 端緒についた教育共有化の継承・発展
- 遠隔教育の方法論および質保障に関する検討
- 大学間における単位互換制度の事務手続きの見直し
- 共同FD事業の仕組みの構築
- 事業継承組織である大学コンソーシアム岡山の組織強化
- 平成23年度に想定される新補助事業への挑戦

第3回連携評価委員会

23

平成23年度連携取組内容および3年間の成果報告

学士力育成のための取組について

(⑦⑨⑩⑪関係)

岡山大学オフィスコーディネーター 遠山 和大

学士力育成のための取組

岡山オルガノン 岡山大学オフィス

学士力育成のための取組

岡山大学オフィスからの報告

1. 配信科目の内容の検討・協議・決定

2. 共同FD活動

3. 共同SD活動

4. i*See の共催

岡山大学オフィス 1

学士力育成のための取組

1. 配信科目の内容の検討・協議・決定

● 学士課程教育連携委員会の開催

- 共通の授業時間「オルガノン時間」
- 募集要項・ポスター・パンフレット等の作成

● 配信科目数

- 2010年度 ...8科目
 - ✓ライブ 5科目 + VOD 3科目
- 2011年度 ...32科目
 - ✓ライブ14科目 + VOD18科目



岡山大学オフィス 2

学士力育成のための取組

2010年度 ライブ配信科目

岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ（岡山経営学）
	経営学特殊講義Ⅱ（岡山経営学）
川崎医科大学	基礎環境医学（リベラルアーツ選択Ⅱ）
倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論
	倉敷まちづくり実践論

岡山大学オフィス 3

2011年度 VOD配信科目

岡山理科大学	アルゴリズム入門
川崎医療福祉大学	睡眠学
吉備国際大学	スポーツ産業論



岡山大学オフィス 4

2011年度 ライブ配信科目

岡山大学	大学と社会
岡山県立大学	音楽の鑑賞
岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ（岡山経営学）
	経営学特殊講義Ⅱ（岡山経営学）
岡山理科大学	岡山学
川崎医科大学	個人・社会と医療考
川崎医療福祉大学	哲学
環太平洋大学	スポーツ栄養学
倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論
	倉敷まちづくり実践論
	まちづくりインターンシップ
くらしき作陽大学	特別支援教育総論
山陽学園大学	宗教思想
中国学園大学	現代子ども学入門

岡山大学オフィス 5

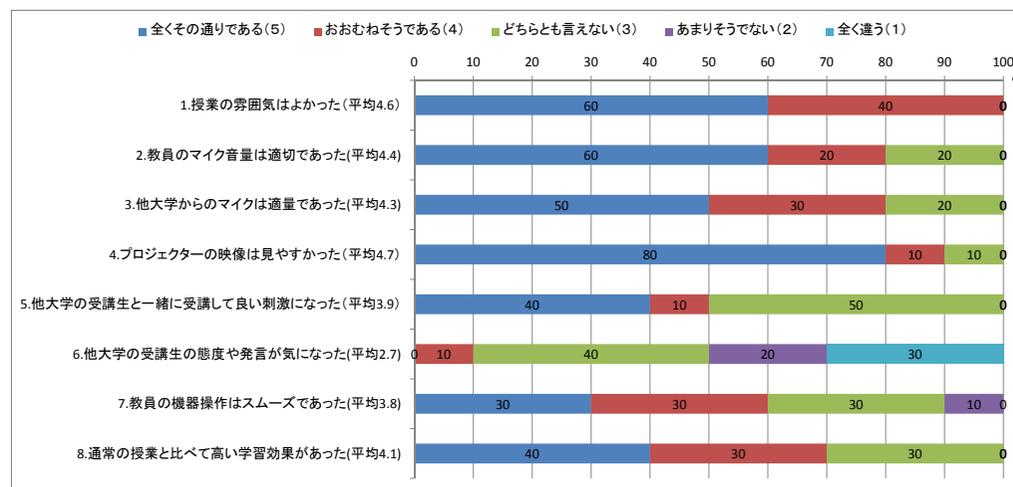
2011年度 VOD配信科目

岡山県立大学	解析学Ⅰ
岡山商科大学	パーソナルファイナンス：金融資産運用・不動産Ⅰ
岡山理科大学	環境と社会
	インターネット入門
	アルゴリズム入門
	環境考古学
川崎医療福祉大学	睡眠学
環太平洋大学	レクリエーション論
吉備国際大学	スポーツ産業論
くらしき作陽大学	音楽療法概論
	食心理学
山陽学園大学	現代中国論
就実大学	日本人の思想
	日本美術史b
中国学園大学	運動生理学

岡山大学オフィス 6

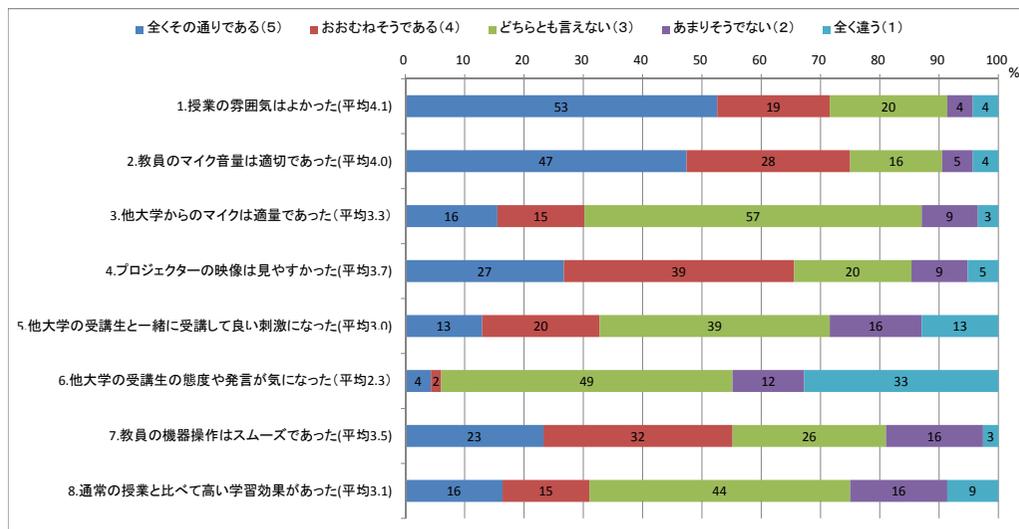
遠隔授業に関するアンケート調査(2011年度前期)

ライブ方式、受信大学の学生(10名)



岡山大学オフィス 7

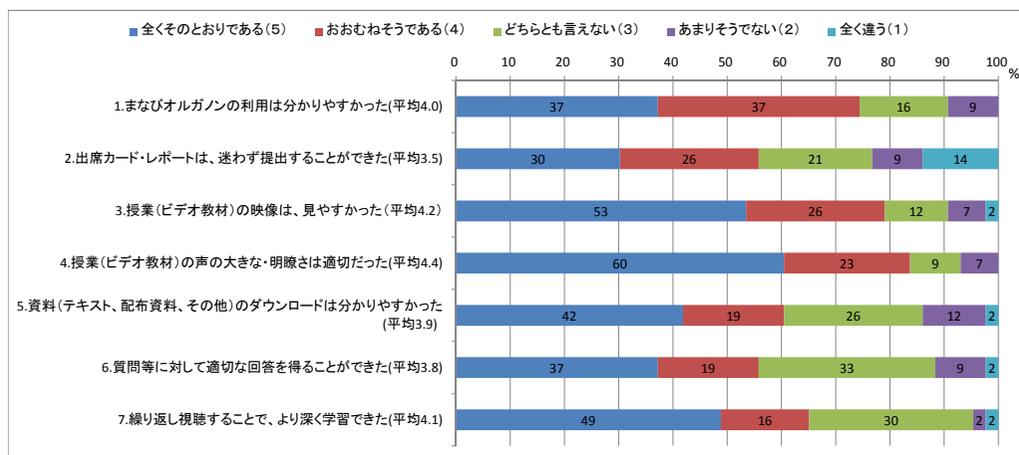
ライブ方式、配信大学の学生(116名)



ライブ方式、学生からのコメント

- 今まで受けたことのない授業形態でとても新鮮でした。もっと、大学同士の話し合いの時間を設けて、授業を進めていけばいいと思う。
- 興味のある内容が、他大学にある場合、遠隔授業として講義を受けることができるのは良いと思います。もっと県内だけではなく他県の将来は海外と遠隔授業が可能になったらもっといろいろと広がると思います。
- とても満足です。もっと受講生が増えるといいですね。人数が増えてきたら討論型の授業があったらいいですね。
- 他大学の同じ教科・専科の科目を受けてみたい。
- その大学にしかない科目(を受けてみたい)。
- 個性的な先生の講義を受けてみたい。
- あまり他大学と一緒に受けている感覚がないので、意見交換の機会があればよいのではないかなと思う。

VOD方式、受信大学の学生(43名)



VOD方式、学生からのコメント

- 他大学の受講生の多い人気のある授業を受けてみたいです。
- 自分の大学にはないような興味のある授業(を受けてみたい)。
- 出来れば、自分の大学の他学部の授業もVOD型で見れたら...と思いました。
- 自分のペースで勉強することができました。
- あまり時間が無く、自分の好きな時に受講できるので重宝しました。
- もっとその存在をしってもらふ必要があると思います。
- こういった授業はまたやりたいと思う。
- 授業の内容を詳しく調べなかった自分が悪いが、パンフレット等に授業のテキストのサンプルでも載せてもらえていたら、もう少し自分でも理解できそうな科目を検討できていたと思う。
- 質問に対する答えがその都度返ってくるともったいいと思う。

2. 共同FD活動

- 共同FD・SD委員会の開催
 - ▶ 共同FD・SD活動について検討
- 「FD・SDシンポジウム」(2009, 2010年度)
- 「桃太郎フォーラム XIII」共催(2010年度)
- 「大学連携による遠隔授業とFD・SDに関するシンポジウム」(2011年度)

第1回FD・SDシンポジウム

「授業評価アンケートの現状(いま)と課題(これから)」

— 15大学の実践知と問題点の共有を目指して —

2010年 3月14 日(日)

基調講演 「授業評価の性質と今後の活用」

立命館大学 教授 安岡 高志 氏

授業評価アンケートの取組状況

連携各大学の取組状況紹介(1大学5分程度で説明)

※数大学毎に安岡先生からのミニコメントを含む

→ 78名の参加者



第2回FD・SDシンポジウム

「学生と社会をつなぐ大学教育の質保証」

2011年1 月9 日(日)

基調講演 「シューカツを考える 職業教育義務化の中で」

東京大学 教授 本田 由紀 氏

対抗報告 「岡山大学のキャリア支援」

岡山大学 教授 三浦 孝仁 氏

パネルディスカッション

ファシリテーター 橋本 勝(岡山大学)

1. 藤木 茂彦 氏(株式会社丸五代表取締役常務)
2. 高木 二三男 氏(財団法人岡山県産業振興財団)
3. 本田 由紀 氏(東京大学教授)
4. 坂入 信也 氏(岡山大学キャリア開発センター教授)
5. 石渡 嶺司 氏(ジャーナリスト)

→ 全国から158名の参加者



桃太郎フォーラムXIII

分科会「授業公開の現状と課題

～ 岡山オルガノン連携校における取り組みから

2010年9月10日

薬学部におけるピアレビューの現状と課題

中尾 浩史(岡山大学)

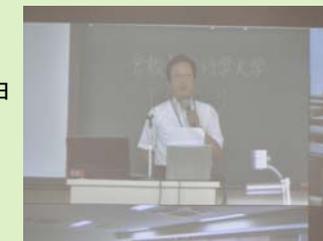
テレビ会議システムを利用した授業公開

— 倉敷まちづくり科目の紹介

小山 悦司(倉敷芸術科学大学)

PowerPoint, LMSサイトを利用した授業の試み

滝澤昇(岡山理科大学)



「学生と社会をつなぐ大学教育の質保証」

2011年1月9日(日)

基調講演 「シューカツを考える 職業教育義務化の中で」

東京大学 教授 本田 由紀 氏

対抗報告 「岡山大学のキャリア支援」

岡山大学 教授 三浦 孝仁 氏

パネルディスカッション

ファシリテーター 橋本 勝(岡山大学)

1. 藤木 茂彦 氏(株式会社丸五代表取締役常務)
2. 高木 二三男 氏(財団法人岡山県産業振興財団)
3. 本田 由紀 氏(東京大学教授)
4. 坂入 信也 氏(岡山大学キャリア開発センター教授)
5. 石渡 嶺司 氏(ジャーナリスト)

→ 全国から158名の参加者



共同SD研修会の開催

- 「大学職員のための実践メンタルヘルス講座」(2010年)
- 「クレイマー対策」(2011年)

- ✓ メンタルヘルスや法的な観点からの研修: 連携校間で共有。
- ✓ SD活動: 事務能力の向上という側面より、学生に対する教育的観点(主に学習面での学生支援)を重視。

- 2010年度 ...2010年8月24日、吉備創生カレッジさん太キャンパス

➢ 「大学職員のための実践メンタルヘルス講座」

講師: 岡山大学保健管理センター 大西勝 教授・清水幸登 准教授
大学生が陥りやすいメンタルヘルス上の問題: 具体例を交えた実践的対処方法
参加者50名。



- 2011年度 ...2011年8月29日、岡山大学

➢ 「クレイマー対応」

- 岡山大学法務研究科教授・弁護士 吉野夏己
- 岡山大学法務研究科准教授・弁護士 吉沢徹

「モンスター・ペアレント」を始めとする苦情対応。現場での対応、法的手段、事後処理など。
参加者138名。



4. i*Seeの共催

- i*See: Student exchange for an educational innovation(or improvement)
- 岡山大学の学生参画型FD研修事業 (2004年～)
 - ✓ 全国の大学から、学生・教員・職員の参加者。
 - ✓ 学生目線による教育改善活動について考える機会。
 - ✓ 岡山オルガノンの連携により、県内連携校からの参加者も。

岡山大学オフィス 20

i*See2009

- 2010年9月4-5日、岡山大学
 - 「大学を変える2つのスパイス」
- 全国34大学、94名が参加。
- ▶ 学生交流グループワーク: 学生が日頃抱いている思いを川柳で表現
 - ▶ 「学生主体の教育改善活動」の取組事例の発表とシンポジウム
 - ▶ 講演「職員が参加する教育改善活動について」
 - ▶ グループディスカッション



岡山大学オフィス 21

i*See2010

- 2010年9月4-5日、岡山大学
 - 「大学生活をより充実したものへ、より有意義なものへ」
- 全国29大学、102名が参加。
- 1日目: フリーディスカッション～授業に期待、してますか?～
 - アイスブレイク
 - フリーディスカッション
 - 2日目: グループ議論～大学で身につけたい能力～



岡山大学オフィス 22

i*See2011

- 2011年9月10-11日、岡山大学
 - 「～大学生活を充実させるために～」
- 全国27大学、107名が参加。
- 1日目: 「大学生活を充実させるためには何を一番大切にしたらよいか」
 - ウォームアップ: 大学生活バスケット
 - 事例報告と全体討論
 - 2日目: グループ議論「大学生活を充実させるために、大学が出来ること」



岡山大学オフィス 23

1. 配信科目の内容の検討・協議・決定

2. 共同FD活動

3. 共同SD活動

4. i*Seeの共催

平成23年度連携取組内容および3年間の成果報告

社会人基礎力育成のための取組について

(⑫⑬⑭⑮関係)

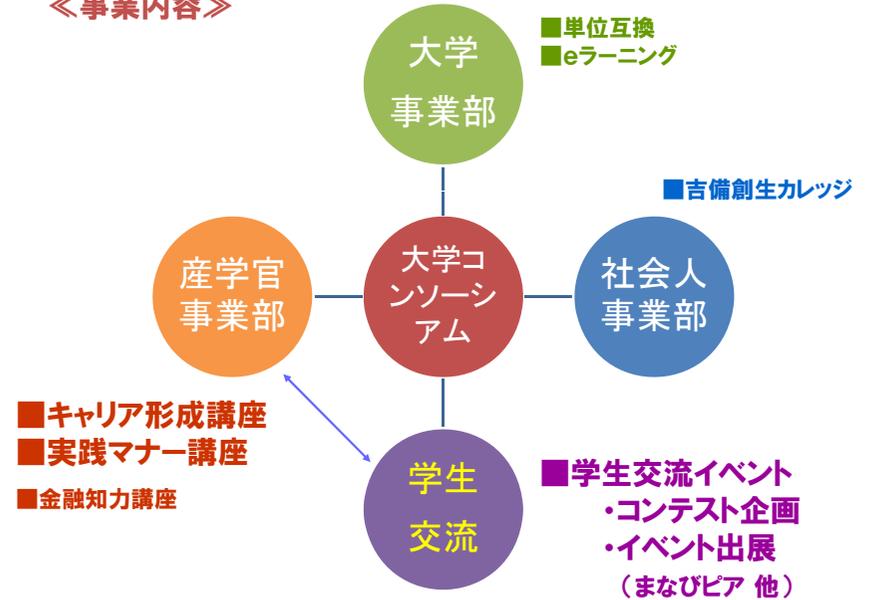
中国学園大学オフィス代表 飯田 哲司



社会人基礎力養成事業

中国学園大学オフィス

《事業内容》



●産学官連携事業部

『キャリア形成講座』

『実践マナー
& ビジネスマインド講座』



(於、岡山市デジタルミュージアム 講義室)

岡山の大学へ行こう! Vol.2

岡山県内の大学へ進むと、他大学の特色ある科目も無料で受講できることをご存じですか？ 2006年4月に発足した産学官連携組織「大学コンソーシアム岡山」は、県内すべての4年制16大学と岡山経済同友会、岡山県が正会員、4短大・1高专が特別会員として加盟し、単位互換制度などで学生の学びを強力にサポートしています。教育・研究力と地域力の一層の向上を目指す「大学コンソーシアム岡山」の取り組みをご紹介します。

産学官連携組織「大学コンソーシアム岡山」



16大学が約250科目を提供

■単位互換制度

大学教育事業部

産学官連携事業部

キャリア形成講座・金融知力講座

“オール岡山”で学

「体験型(参加型)講義」

「実践的トレーニングワーク」

「プレゼンテーション大会」



実践的トレーニング



就活のためではなく、
入社後～定年まで
活かせるキャリア教育



「社会人基礎力」

*経済産業省が定義

- 1) 前に踏み出す力 (アクション)
- 2) 考え抜く力 (シンキング)
- 3) チームで働く力 (チームワーク)

⑫ 実践的キャリア指導チームによる
講義プログラムの構築と連携校での実施

⑬ 学生・社会人の参画による
ワーキングおよびワークショップの開催

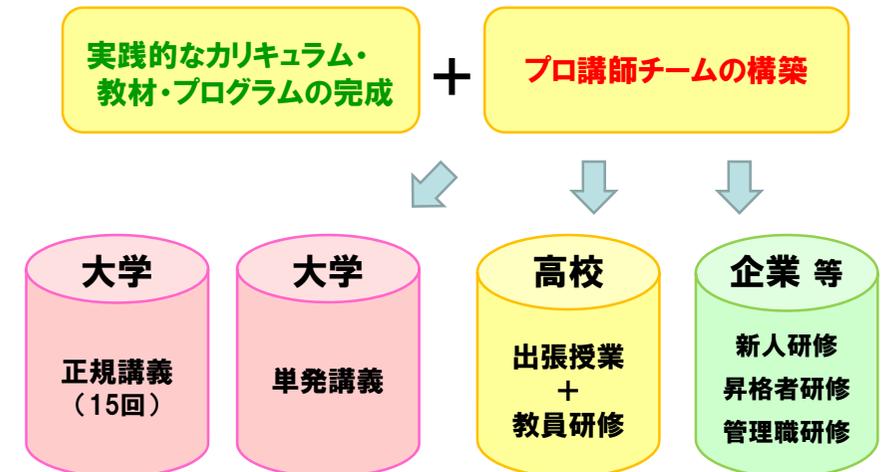
⑭ 実践的体験型講座
「ビジネスマインド集中講座」の実施

⑮ 学生・社会人交流型
「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

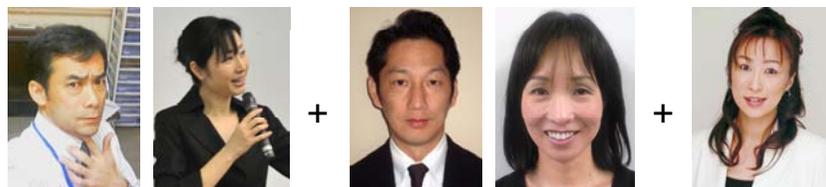
中国学園大学オフィス

⑫ 実践的キャリア指導チームによる
講義プログラム構築と
連携校での実施

中国学園大学オフィス「社会人基礎力養成」⑫



実践的キャリア指導の講師チーム

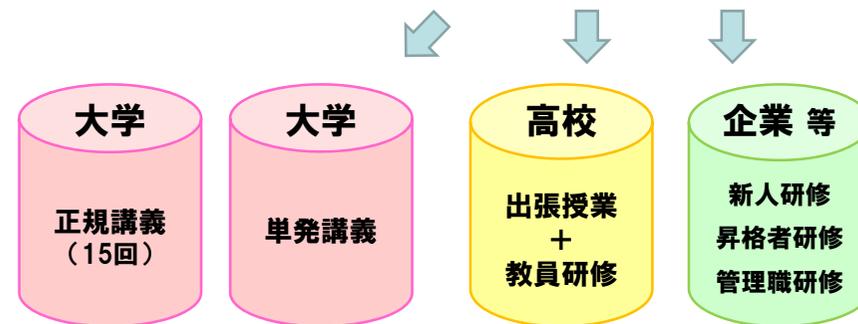


飯田 哲司 大学教授
 桑田 朋美 社会保険 労務士
 松田 周司 中小企業 診断士
 侍留 慶子 社会保険 労務士
 上村 明子 社会保険 労務士

- 企業勤務の経験を有する（管理職の経験、人事・育成担当の経験）
- 社会人研修の**プロ講師としての実績と高い評価**を有する
- キャリア形成・能力開発に関する**資格・経験**を有する
- 授業プログラムと**資料・教材の作成能力**が高い
- 大学での講義経験を有する（授業評価 4.3以上も）

実践的なカリキュラム・
教材・プログラムの完成

プロ講師チームの構築



■実践的・体験型講義の実施回数

	大学 正規講義 (15回) (2単位)	大学 単発講義 講演	高校 出張講義 教員研修	企業 新人研修 管理職研修	計	月平均
H21年度 (後期)	—	13	9	9	31	(4.4)
H22年度	—	30	22	4	56	(4.6)
H23年度	30	18	23	20	91	(7.5)
計	30	61	54	33	178	(5.7)

※ コンソーシアム「キャリア形成講座」(60講義)は集計に含まず

■実践的・体験型講義の実施回数

	大学 正規講義 (15回) (2単位)	大学 単発講義 講演	高校 出張講義 教員研修	企業 新人研修 管理職研修	計	月平均
H21年度 (後期)	—	13	9	9	31	(4.4)
H22年度	—	30	22	4	56	(4.6)
H23年度	30	18	23	20	91	(7.5)
計	30	61	54	33	178	(5.7)

※ コンソーシアム「キャリア形成講座」(60講義)は集計に含まず



大学での『実践的・体験型講義』



【実施大学】

(連携校)

- ・岡山大学
- ・岡山理科大学
- ・環太平洋大学
- ・倉敷芸術科学大学
- ・中国学園大学

(連携校以外)

- ・中国短期大学
- ・香川大学
- ・姫路獨協大学



高校(8校+教育庁)、企業・団体(20社)での実践は、
大学でのプログラム構築に大きな収穫を！！



授業アンケート 講義別集計表

2011年度 前期

非常勤講師 飯田 哲司

木曜日 7-8時限 キャリア形成講座 B2群 選択

受講者数 29名

質問項目	1の回答数	2の回答数	3の回答数	4の回答数	5の回答数	平均値	回答数
A	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)	11(40.7%)	15(55.6%)	4.5	27
B	1(3.7%)	2(7.4%)	14(51.9%)	6(22.2%)	4(14.8%)	3.4	27
C	0(0.0%)	0(0.0%)	7(25.9%)	6(22.2%)	14(51.9%)	4.3	27
D	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(14.8%)	23(85.2%)	4.9	27
E	0(0.0%)	0(0.0%)	2(7.4%)	5(18.5%)	20(74.1%)	4.7	27
F	0(0.0%)	0(0.0%)	10(37.0%)	4(14.8%)	13(48.1%)	4.1	27
G	0(0.0%)	0(0.0%)	2(7.4%)	6(22.2%)	19(70.4%)	4.6	27
H	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)	4(14.8%)	22(81.5%)	4.8	27
I	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(14.8%)	23(85.2%)	4.9	27
J	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)	4(14.8%)	22(81.5%)	4.8	27
K	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)	6(22.2%)	20(74.1%)	4.7	27
L	0(0.0%)	0(0.0%)	1(3.7%)	4(14.8%)	22(81.5%)	4.8	27
M	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(7.4%)	25(92.6%)	4.9	27
N	0(0.0%)	1(3.7%)	0(0.0%)	4(14.8%)	22(81.5%)	4.7	27
O							
P							
Q							
R							
S							
T							

4(14.8%)	22(81.5%)	4.8	27
4(14.8%)	23(85.2%)	4.9	27
4(14.8%)	22(81.5%)	4.8	27
6(22.2%)	20(74.1%)	4.7	27
4(14.8%)	22(81.5%)	4.8	27
2(7.4%)	25(92.6%)	4.9	27
4(14.8%)	22(81.5%)	4.7	27

コミュニケーション講座のまとめ

桑田先生	評価	参考になったか	聞く態度の自己評価
1	1	3	3
2	0	3	6
3	14	13	23
4	28	43	40
5	92	74	62
計	135	136	134

↓
4.56 ↓
4.34

飯田先生	評価	参考になったか	聞く態度の自己評価
1	2	0	5
2	3	3	7
3	9	16	19
4	31	47	34
5	93	71	72
計	138	137	137

↓
4.52 ↓
4.36

⑬ 学生・社会人の参画による ワーキングおよびワークショップ の開催

中国学園大学オフィス「社会人基礎力養成」⑬

講座の充実と
レベルアップのために



学生
社会人
企業に

ワーキング活動
(ヒヤリング・意見交換会)



ワークショップ開催
(教職員講習会) ※学生参画型



中国学園大学オフィス「社会人基礎力養成」⑬

■ワーキング（ヒヤリング・意見交換会）

- 【対象者】
- A. キャリア形成講座の現役受講生
 - B. " " 受講経験者（現 学生）
 - C. " " 受講経験者（現 社会人）
 - D. 大学のキャリア教育担当教員、高校の進路担当者
 - E. 企業の人事担当および管理職



■ワーキングの実施回数

	キャリア講座 現役受講生	キャリア講座 受講経験者 (学生)	キャリア講座 受講経験者 (社会人)	大学教員 高校担当者	企業の担当 管理職	計
H22度	4	9	4	5	3	<u>25</u>
H23度	2	6	4	3	4	<u>19</u>
計	6	15	8	8	7	<u>44</u>

- ワーキングのテーマ：①学生や社会が望む「キャリア形成教育」とは
②実践的場面で活かされる「社会人基礎力」とは

※ このワーキングの成果・結果を反映させ、「⑭集中講座」「⑮交流型シンポジウム」を開催

■ワークショップ

- ・日時：平成23年9月30日(金) 14:00～16:00
- ・場所：中国学園大学 12号館 M203教室
- ・対象：連携校のキャリア教育担当者 + 「キャリア講座」受講経験者



- ・参加者数：20名（大学教職員16名 + 学生3名・社会人1名）
- ・参加大学：岡山商科大、岡山理科大、川崎医科大、環太平洋大、吉備国際大、倉敷芸術科学大、就実大、中国学園大

■ワークショップ <平成23年9月30日 開催>

- ・内容：①ワーキング報告
「ヒアリングから見た学生と社会の要望」
(中国学園大学オフィス 飯田)
- ②プレゼンテーション
「今、学生が望むキャリア教育とは」
(現役学生3名 + 若手社会人1名)
- ③グループディスカッション
(4グループに分かれてのディスカッション)
* 4つのキーワード：
・「就活支援とキャリア教育とは別物」
・「体験型学習の意義」
・「キャリア講義の必修化」
・「アウトプットの能力(発信力・完結力)の養成法」

⑭ 実践的・体験型

「ビジネスマインド講座」の実施

『ビジネスマインド集中講座』

【特徴】

- ・企業で実施の社員研修の内容
- ・他大学の学生との体験型ワーク
- ・社会人の受講生も参加（→交流に）

*3講義を連続実施の「一日集中講座」



H22年度： 岡山大学にて実施
8大学 のべ92名が受講

H23年度： 中国学園大学にて実施
7大学 のべ66名が受講
(定員オーバーにつき追加開講も)

『ビジネスマインド集中講座』

【H23年度の強化ポイント】

*ワーキングで、企業人から要望があがった4つの能力の向上

- 「①課題解決力」 「②アウトプット力」
- 「③チームワーク力」 「④修整能力」

⇒ ペアワーク・グループワーク形式で実施



⑮ 学生・社会人交流型
「社会人基礎力養成シンポジウム」
の開催

■ 社会人基礎力養成シンポジウム 2010

【内容】

- ①講演：「現場で活かせ！社会人基礎力」
(講師：松下直子氏)
- ②シンポジウム：「若手社会人の体験談報告」
(パネラー：入社2年目社員 4名)



平成22年12月25日(土)
於、中国学園大学



■ 社会人基礎力養成シンポジウム 2010



*参加者数：147名（うち学生115名）

*参加大学：岡山大、岡山商科大、岡山理科大、吉備国際大、ノートルダム清心女大、中国学園大、中国短期大、香川大、関西学院大



■ 社会人基礎力養成シンポジウム 2011

現場で発揮される「社会人基礎力」を考える
《学生・社会人 交流型シンポジウム》

平成23年12月11日（日）
於. 中国学園大学



*参加者数：189名（うち学生132名）

*参加大学：岡山大、岡山県立大、岡山理科大、くらしき作陽大、ノートルダム清心女大、中国学園大、中国短大、香川大

■ 社会人基礎力養成シンポジウム 2011

【内容】

- ① 講演：「現場で求められる社会人基礎力とは」
講師：飯田哲司（中国学園大学オフィス）
- ② シンポジウムⅠ：「若手社会人の体験談報告」
パネラー：入社3年目社員 3名
- ② シンポジウムⅡ：「リーダー社員からのメッセージ」
パネラー：リーダー・管理職社員 4名



- ⑫ 実践的キャリア指導チームによる
講義プログラムの構築と連携校での実施
- ⑬ 学生・社会人の参画による
ワーキングおよびワークショップの開催
- ⑭ 実践的体験型講座
「ビジネスマインド集中講座」の実施
- ⑮ 学生・社会人交流型
「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催



大学教育連携センター

中国学園大学オフィス

社会人基礎力養成事業 担当

平成23年度連携取組内容および3年間の成果報告

地域発信力育成のための取組について

(⑩⑪⑫関係)

岡山商科大学オフィス室長 大崎 紘一

地域発信力育成のための取組について

— 地域発信力育成のための計画・実施 — [平成21～23年度]

岡山商科大学オフィス構成

(平成21年9月15日設置)

岡山商科大学オフィス 室長 大崎 紘一(岡山商科大学 副学長)

岡山商科大学オフィス コーディネーター 矢延 里織 事務補佐員 長内 路子

オフィス会議: 教員3名 事務職員 6名

岡山商科大学オフィスの目的

地域貢献活動による「地域発信力の育成」

- ⑯ 双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信
- ⑰ 「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催
- ⑱ 「エコナイト」の開催

双方向コンテンツ委員会

「目的」 ⑯

15大学間での双方向ライブ型遠隔科目の開発とテレビ会議システムを用いての実施方法の開発

地域活性化委員会

「目的」 ⑰ ⑱

15大学の教育研究を基盤にして地域に連携発信する仕組み、テーマの開発

⑯

双方向ライブ型方式による 遠隔授業の継続配信

双方向コンテンツ委員会



双方向コンテンツ委員会の様子



テレビ会議システムで配信する際に使用する周辺機器の例

1) 双方向ライブ型遠隔講義の検討・実施内容

- (1) 双方向ライブ型遠隔科目の開発・運用方法
 - ① 科目の開発
 - ② 運用方法
- (2) テレビ会議システムの運用方式
 - ① 導入・活用方法
 - ② 運用方法
- (3) 成果の発表
 - ① シンポジウム
「平成23年度 大学連携による遠隔授業とFD・SDIに関するシンポジウム」
 - ② 学内での報告書
- (4) 平成24年度以降の講義の運用
- (5) 他地域の実践例の視察

2) 双方向ライブ型遠隔科目の開発と運用

(1) 双方向ライブ型遠隔科目の開発

- ① 岡山商科大学「経営学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」による双方向ライブ型配信科目の開発(申請書に記述)
 - a) パワーポイント原稿配信、講義資料配布
 - b) 出席管理、レポートの提出
 - c) 受信大学の曜日運用の違い、講義DVDの送付と返却
 - d) 質問への対応
- ② 川崎医科大学「個人・社会と医療考」
 - a) 板書におけるホワイトボードと書画カメラの使用
- ③ 倉敷芸術科学大学「倉敷まちづくり基礎論・実践論」
 - a) 土曜日開講
 - b) 倉敷市内で講義

2) 双方向ライブ型遠隔科目の開発と運用

(2) 双方向ライブ型遠隔科目の運用

- ① 双方向ライブ型遠隔科目の単位認定、単位互換・単位認定に関する学内、大学間の規程類の整備
- ② 大学における講義時間帯の違い、3つの共通時間帯の設定
 - a) 8:40~10:10、11:05~12:35、16:50~18:20
- ③ 時間帯の違いを考慮した双方向ライブ型配信方式の決定
- ④ 試験・成績評価に関する取り決め、出席管理
- ⑤ 講義資料、レポート提出に関する取り決め
- ⑥ 配信不可の場合の対応
 - a) DVDの著作権(岡山商科大学方式)
 - b) 各大学へのビデオカメラ機器の設置

※ 岡山大学オフィス、大学教育連携センター(岡山理科大学)と連携

3) 双方向ライブ型遠隔科目

(1) 平成22年度 3大学、5科目

[平成22年度 前期・後期] 配信科目数: 5科目 履修者数: 20名 単位修得者数: 13名

平成22年度	No	配信大学	科目名	単位修得者数/履修者数	
前期	1	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ	3/3	4/4
	2	川崎医科大学	基礎環境医学	1/1	
後期	1	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅱ	3/5	9/16
	2	倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論	3/7	
	3		倉敷まちづくり実践論	3/4	
合計				13/20	

アンケート調査結果(一部抜粋)

No	内容
1	映像が見やすく資料と一緒にみれる。
2	声が聞き取りやすい。静かに受講できる。
3	ライブ中継されているので、録画とは異なり緊張感ももてたこと。
4	人数が増えたら討論型の授業があったらいいですね。
5	パワーポイントだけでなく、講義されている方の顔を見て話が聞きたかった。
6	レーザーポイントを使われると、受信側はどこを指しているのかが分からない。

3) 双方向ライブ型遠隔科目

(2) 平成23年度 11大学、14科目

[平成23年度 前期] 配信科目数: 7科目 履修者数: 11名 単位修得者数: 11名

平成23年度	No	配信大学	科目名	単位修得者数/履修者数	
前期	1	岡山大学	大学と社会	4/4	11/11
	2	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ(岡山経営学)	0/0	
	3	川崎医科大学	個人・社会と医療考	2/2	
	4	川崎医療福祉大学	哲学	0/0	
	5	倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論	2/2	
	6		まちづくりインターンシップ	2/2	
	7	くらしき作陽大学	特別支援教育総論	1/1	
合計				11/11	

[平成23年度 後期] 配信科目数: 7科目 履修者数: 16名 単位修得者数: 未集計

平成23年度	No	配信大学	科目名	履修者数
後期	1	岡山県立大学	音楽の鑑賞	3
	2	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅱ(岡山経営学)	2
	3	岡山理科大学	岡山学	0
	4	環太平洋大学	スポーツ栄養学	7
	5	倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり実践論	2
	6	山陽学園大学	宗教思想	2
	7	中国学園大学	現代子ども学入門	0
合計				16

4) テレビ会議システムの導入と運用方式

(1) 導入機器(15大学共通機器)

① テレビ会議システム 一式(SONY PCS-XG80)



② データソリューションソフトウェア (SONY PCSA-DSG80)



③ 多点ソフトウェ (SONY PCSA-MCG80)

④ マトリックス(オーディオ)ミキサー (audio technica AT-MX44)



⑤ ペンタブレット(WACOM BAMBOO)



4) テレビ会議システムの導入と運用方式

(2) テレビ会議システム

① マニュアルの作成

- a) テレビ会議システム 基本操作マニュアル
- b) テレビ会議システム 簡易版マニュアル
- c) MCU接続方式 テレビ会議システム 操作マニュアル(15大学同時接続)
- d) 双方向ライブ型遠隔講義 運用マニュアル
- e) 講義資料アップロード手順
- f) 通信チャット手順(緊急連絡用)
- g) 動画ビデオ配信手順
- h) カスケード接続手順(最大10大学同時接続)



テレビ会議システム基本操作マニュアル



MCU接続方式操作マニュアル



簡易版マニュアル



講義資料アップロードマニュアル

② 通信・配信テストの実施

平成21年度 12回 平成22年度 7回 平成23年度 5回

5) 「双方向コンテンツ委員会」 開催実績

(1) 双方向コンテンツ委員会開催実績

① 平成21年度

- 第1回目 平成21年12月8日
- 第2回目 平成22年3月4日

② 平成22年度

- 第1回目 平成22年6月4日
- 第2回目 平成22年10月5日
- 第3回目 平成22年12月22日

③ 平成23年度

- 第1回目 平成23年6月17日
- 第2回目 平成23年11月25日
- 第3回目 平成24年2月予定

(2) 平成23年度 双方向コンテンツ委員会運営委員名簿

大学名	氏名	所属・職名
岡山大学	三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科教授、生涯学習・教育連携部門長
	遠山 和太	学務部・助教(特任)
岡山県立大学	桂 有子	全学教育研究機構長/情報工学部 教授
	三原 和也	総務課企画広報班 主任
岡山学院大学	竹中 一平	講師
岡山商科大学	大崎 敏一	副学長、産学官連携センター長
	小松原 実	経営学部教授、情報教育センター長
岡山理科大学	大西 荘一	情報科学科教授
	澤原 広	学務部次長
川崎医科大学	大槻 剛巳	学長補佐、衛生学教授
川崎医療福祉大学	虫明 基	自然科学教授
	金光 義弘	学長補佐
環太平洋大学	木戸 和彦	学級経営学科 講師
吉備国際大学	佐藤 匡	社会学部ビジネスコミュニケーション学科教授
	今村 俊介	文化財学部アニメーション文化学科、講師
倉敷芸術科学大学	村山 公保	産業科学技術学部教授
	忠政 慎也	学務部教務課長
くらしき作陽大学	木村 万里子	食文化学部准教授
	片岡 武	総合人間学部生活心理学科准教授
山陽学園大学	片岡 洋行	薬学科教授、教務部長
	福場 光代	教務担当課長
就実大学	森本 達也	教務担当 事務員
	林 修	子ども学部教授
	福森 護	情報ビジネス学科教授
中国学園大学	森 恵子	現代生活学部教授
	村松 敬生	教務課課長
ノートルダム清心女子大学	小川 賢一	学務部長、人間生活学部教授

「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催

地域活性化委員会



「地域活性化シンポジウム」
 パネルディスカッション
 (平成22年度)



第1分科会 学生活動の取組報告
 「大学における活動と大学間連携」
 基調講演(平成23年度)



第2分科会 「日ようび子ども大学」
 大学連携による子ども参画型
 ブース展示と発表(平成23年度)

1) 地域活性化活動の検討・実施内容

(1) 各大学における教育・研究テーマの収集・分析

- ① 岡山県内特定地域を対象
- ② 特色のある地域の住民を対象

(2) 各大学における「学生・教職員参画型」活動

- ① エコ活動
 - a) 各大学におけるエコイベント活動
 - b) 岡山県、岡山市との連携活動
 - c) エコ企業訪問
- ② 東日本大震災支援活動
 - a) 岡山市との連携

(3) 大学連携活動としての地域への発信計画・実施

2) 15大学における教育・研究テーマ

(1) 県内特定地域を対象とした教育テーマ

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| a) 「玉島地域との連携による職の新商品開発及び地域行事参加」 | (くらしき作陽大学 食文化学部 教授 木戸 啓仁 氏) |
| b) 「門田地域の研究」 | (山陽学園大学 総合人間学部 教授 濱田 栄夫 氏) |
| c) 「笠岡諸島における地域研究」 | (岡山商科大学 副学長 大崎 紘一 氏) |
| d) 「新庄村、笠岡諸島における地域研究」 | (岡山商科大学 経済学部 教授 多田 憲一郎 氏 他) |
| e) 「おかやま連携大学祭」 | (中国学園大学 こども学部 講師 中田 周作 氏) |

(2) 地域住民を対象とした教育・研究テーマ

① 地域住民対象

- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| a) 「倉敷市庄地区における高齢者サロンの取組み」 | (川崎医療福祉大学 ボランティアセンター長 教授 古我 知成 氏) |
| b) 「各種音楽演奏会 CMソング等オリジナル楽曲制作」 | (くらしき作陽大学 教授 渡邊 康雄 氏、講師 新名 俊樹 氏) |

② 子供対象

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| a) 「サマーキッズキャンパス」 | (くらしき作陽大学 教授 山下 静江 氏) |
| b) 「安全安心マップ作り」 | (山陽学園大学 社会サービスセンター長 濑谷 俊彦 氏) |
| c) 「ちゅうたん おもちゃ公演」 | (中国学園大学) |
| d) 「放課後児童クラブ(学童保育)指導員の養成」 | (中国学園大学 こども学部 講師 中田 周作 氏) |
| e) 「環太平洋大学の地域貢献活動について」 | (環太平洋大学 次世代教育学部 教授 佐藤 忠文 氏) |

3) 平成22年度 県内特定地域をテーマにしたシンポジウム開催

「地域活性化シンポジウム」

平成22年10月2日開催

地域活性化と大学の役割 - 「地域発信力」のための連携の模索 -

【第1部: 取り組み内容の発表】発表テーマと発表者

参加者: 78名

- (1) 「倉敷地域における学生による地域活性化の取り組み」 (倉敷芸術科学大学 産業科学技術学部 教授 藤高 邦宏 氏)
- (2) 「玉島地域における食の新商品開発の取り組み」 (くらしき作陽大学 食文化学部 教授 木戸 啓仁 氏)
- (3) 「門田地域の歴史的意味について」 (山陽学園大学 総合人間学部 教授 濱田 栄夫 氏)
- (4) 「岡山という地域を知る」 (岡山理科大学 総合情報学部 教授 志野 敏夫 氏)
- (5) 「新庄村における集落活性化の取り組み」 (岡山商科大学 地域再生支援センター長・経済学部 教授 多田 憲一郎 氏)

【第2部: パネルディスカッション】パネリストとコーディネーター

【パネリスト】	岡 荘一郎 氏 (倉敷商工会議所 副会頭)
	片倉 博 氏 (和気町 丸山・南山方区集落機能再編強化委員会 委員長)
	守屋 基範 氏 (笠岡市 建設産業部 経済観光活性化課 統括)
【コーディネーター】	多田 憲一郎 氏 (岡山商科大学 地域再生支援センター長・経済学部 教授)



第2部 ディスカッション

4) 平成23年度 「大学連携による地域活性化シンポジウム」開催

平成23年6月26日開催

【第1分科会】学生活動の取組報告「大学における活動と大学間連携」



第1分科会テラス表面と裏面

学生による事例報告

ディスカッション

主なプログラム

参加者: 67名

- (1) 基調講演「川崎医療福祉大学ボランティアセンターの取組について」
西本 哲也 氏 (川崎医療福祉大学 ボランティアセンター 副センター長・講師)
- (2) 学生による事例報告とディスカッション
コーディネーター 小山 悦司 氏 (倉敷芸術科学大学 教育研究支援センター所長、教授)
- (3) 事例報告
 - ① 「i*See 2010～第1回大学生改善交流」 高橋 和 さん (岡山大学、i*See 2010実行委員長)
 - ② 「若者の元気がまちを元気にする！」 入江 公美子 さん 壺井 志保 さん 難波 志帆 さん (倉敷芸術科学大学)
 - ③ 「本学ボランティアセンター学生スタッフの活動報告と課題」 新谷 卓也 くん (川崎医療福祉大学 大学院)
 - ④ 「科学ボランティアセンター学生スタッフ会の活動紹介」 安宅 祐介 くん 杉山 都飛 くん (岡山理科大学)

4) 平成23年度 「大学連携による地域活性化シンポジウム」開催

【第2分科会】「日ようび子ども大学」大学連携による子ども参画型ブース展示と発表



第2分科会チラシ表面と裏面

入学証とスタンプラリー

展示ブース

テレビ会議システム
第1分科会生中継

出展大学、テーマ、及び責任者

参加者:508名

大学名	テーマ	出展者氏名
岡山県立大学	いろいろな遊具(ゆうぐ)であそぼう!	情報工学部 准教授 越川 茂樹 氏 保健福祉学部 講師 新山 順子 氏
岡山商科大学	「欲しいものや必要なもの」違いを見つけて手に入れられるかな?	経営学部 准教授 高林 宏一 氏
岡山理科大学	おうちでできる楽しい実験・工作	理学部 准教授 高原 周一 氏
川崎医療福祉大学	お子さんの“気質(性格)”を理解して関わりかたについて考えてみよう	医療福祉学部 准教授 武井 祐子 氏
倉敷芸術科学大学	色で遊ぼう! 体を使ったお絵かき教室	産業科学技術学部 教授 小山 悦司 氏
山陽学園大学	「生活心理による安全安心マップ」づくり	総合人間学部 教授 益谷 俊彦 氏
就実大学	就実子育てアカデミーってなんだろう?	教育学部 教授 佐藤 和順 氏
中国学園大学	作って遊ぼう! 親子で工作教室! !	子ども学部 講師 中田 周作 氏

4) 平成23年度 「大学連携による地域活性化シンポジウム」開催

アンケート調査結果 (一部抜粋)

【第1分科会】 学生活動の取組報告「大学における活動と大学間連携」

No	内容
1	4校による事例報告を聞いて、地域の活性化等について大変興味を持ちました。自分たちが「町づくり」に参加、運営していく上で、どういった考えの基でやっていくのか、またどのように地域貢献をしていくのか、ということをも再度考えさせられました。
2	学生の発表がそれぞれ特徴があり、内容や取組みは違っていても、生き生きと一生懸命さが伝わり、そういうことを知ることができたのが非常に良かった。せっかくの学生の活動をやはり多くの人に知ってもらいたいし、知ってもらえる機会を増やすことが活動を支援することにつながると思います。
3	学生の自主的活動も含めた大学間連携の実践という意味では、そのきっかけ、第一回としては大成功ではないでしょうか。こうした実践的連携行事が第二回、第三回と続くことを期待します。
4	とても面白かった。もっと時間をもって、今日話を聞けなかった大学の話を聞きたい。

【第2分科会】「日ようび子ども大学」大学連携による子ども参画型ブース展示と発表

No	内容
1	大学生じゃないと入れない気がして近寄りたかったけど、こんなふうに参加の機会が増えるとより親しみがわきます。
2	小学校低学年のイベントは多く感じました。高学年向けの内容をもっと増やしてほしい。
3	ふだんの研究や、学習によって得られた事を、子供たちのふれあいを通して知らせてほしい。
4	地域とかかわる大学の姿をみる事ができた。
5	楽しめた! 欲を言えば大人も参加できるものが増えると嬉しいです。
6	参加者が多くて盛況だったがやや手狭なところもあった。初めての試みとしてよかったので次回は大規模な会場もよい。



岡山大学

岡山県立大学

岡山学院大学 自家用車通勤自粛の様子

岡山商科大学

⑬「エコナイト」の開催

地域活性化委員会



岡山理科大学

川崎医療福祉大学

環太平洋大学

吉備国際大学

倉敷芸術科学大学



くらしき作陽大学



山陽学園大学



就実大学



中国学園大学

1) 各大学の活動 (エコナイト開催)

【平成22年度実施】

- 1,000人参加**
- 1) 連携校15大学の学生・教職員が参加
 - 2) 特色あるイベントを実施(9大学)
 - 3) 環境教育の実践的活動に取り組んだ
 - 4) アンケート調査を実施(対象:学生、教職員)

連携校9大学の実施イベント

岡山大学 公開シンポジウム「地域の自然エネルギー活用と地方の活性化」	日時:6月26日(土) 場所:岡山大学
岡山県立大学 「七夕フェスティバル」 「ペガサスキャンダル工場見学」	日時:7月7日(水) 場所:岡山県立大学 日時:6月23日(水) 場所:ペガサスキャンダル(株)
岡山商科大学 「ミニ講演会『考えるエコ』」 「蛍光ライトの文字」 「ペガサスキャンダル工場見学」	日時:7月7日(水) 場所:岡山商科大学 日時:7月7日(水) 場所:岡山商科大学 日時:6月23日(水) 場所:ペガサスキャンダル(株)
岡山理科大学 「ペガサスキャンダル工場見学」 「エコキャンドル作製講習会」 「七夕オーナメント準備会」 「ポスターセッション」 「七夕エコナイト」	日時:6月23日(水) 場所:ペガサスキャンダル(株) 日時:7月1日(木) 場所:岡山理科大学 日時:7月2日(金) 場所:岡山理科大学 日時:7月1日(水)~7月7日(水) 場所:岡山理科大学 日時:7月7日(水) 場所:岡山理科大学
川崎医療福祉大学 「七夜の夜に手話で歌おう」、「七夜の夜のうた」、「カウタウンイベント」、「七夕漫談」	日時:7月7日(水) 場所:川崎医療福祉大学
吉備国際大学 「キャンドルナイト in 高梁 2010」	日時:7月9日(金) 場所:高梁市紺屋川一帯
倉敷芸術科学大学 「流しソーメン」、「学友会のイベント」、「エコに関する講話」	日時:7月7日(水) 場所:倉敷芸術科学大学
山陽学園大学 「The Star Festival in SANYO」	日時:7月7日(水) 場所:山陽学園大学
中国学園大学 「エコナイト」 「ペガサスキャンダル工場見学」	日時:7月7日(水) 場所:中国学園大学 日時:6月23日(水) 場所:ペガサスキャンダル(株)

アンケート結果(一部抜粋)

No	内容
1	このイベントが一番参加者から好評でした。一体感と主に何か達成感があり、エコロジーというキーワードが心に刻まれる一番のイベントだと思います。
2	公共交通機関利用の促進に取り組みることにより、地域交通や自分の交通行動を考え直すよい機会となった。運転行動の変化によるCO2削減量の結果が出る、さらに具体的な成果が見えてよい。
3	来年も意欲的に継続したい。連携校全体がうまく参加していくことができる仕組みを検討していきたい。
4	当日の駐車場の様子はあまり変化なかったと思いますが、数名の教職員の方々が、今日は自転車で来たことなどを報告してくださり、その小さな1歩が大切であることを感じました。
5	学内の教職員専用メールにて、学長名で文書を2回配信し(6/23・7/7)、岡山オルガノンの連携協力によるライトダウンの協力呼びかけを、「自家用車利用の自粛 業務終了19時、全館20時に消灯・施錠、家庭での協力」の内容で行った。成果としては、概ね実行されていたように思われる。

2) 各大学の活動 (エコナイト開催)

[平成23年度実施]

1,500人参加

- (1) 連携校15大学の学生・教職員が参加
- (2) 特色あるイベントを実施(12大学)
- (3) 環境教育の実践的活動に取り組んだ
- (4) アンケート調査を実施(対象:学生、教職員)

アンケート結果(一部抜粋)

No	内容
1	教職員にマイカー通勤自粛を呼びかけた結果、約76%の教職員の協力が得られた。
2	岡山市および市内4大学が協力したイベントを実施できた。幅広い交流が実現でき、また一般市民も参加することができた。
3	始めて学生達が企画したエコナイトを実施した。当日は雨にも拘わらず100名ほどの学生が集まり、イベントとしては成功した。しかしながら、エコナイトの趣旨がどこまで学生達に通じているかはやや疑問である。次年度は、参加者に何か訴える企画を考える必要がある。
4	(蛍光ライト・エコキャンドルについて)ライブの時に利用した。昨年同様、大変好評であった。
5	大雨でしたが、ご協力くださった方がいました。少なくとも多くの方がエコロジーを意識する日になったと思います。
6	早い時期からの企画検討が必要。

連携校12大学の実施イベント

- 岡山大学**
公開シンポジウム「震災から学ぶエネルギー対策」 日時:6月25日(土) 場所:岡山大学
「岡山大学エコナイト」 日時:7月7日(木) 場所:岡山大学
「ペガサスキャンドル工場見学」 日時:6月22日(水) 場所:ペガサスキャンドル(株)
- 岡山県立大学** 「岡山県立大学七夕フェスティバル2011」 日時:7月7日(木) 場所:岡山県立大学
- 岡山商科大学**
「東日本応援活動及びエコイベント」 日時:7月7日(木) 場所:NHKひかりの広場
「ペガサスキャンドル工場見学」 日時:6月22日(水) 場所:ペガサスキャンドル(株)
- 岡山理科大学**
「七夕エコナイト」 日時:7月7日(木) 場所:岡山理科大学
七夕エコナイト、東日本応援活動及びエコイベント(NHKひかりの広場)、エコポスター・七夕飾りの展示、ライブカメラによる七夕エコナイトの情景配信、ペガサスキャンドル工場見学
- 川崎医療福祉大学** 「七夕寄席」 日時:7月7日(木) 場所:川崎医療福祉大学
邦楽部の演奏、「エコロジー」についての講演会、カウントダウン消灯、手話サークルによるイベント
- 環太平洋大学**
「七夕エコ茶会 —お茶会と邦楽の夕べ—」 日時:7月7日(木) 場所:IPU 環太平洋大学
- 吉備国際大学** 「キャンドルナイトin高梁2011」 日時:7月9日(土) 場所:高梁市紺屋川沿い
- 倉敷芸術科学大学** 日時:7月7日(木) 場所:倉敷芸術科学大学
「廃油から作ったロウソクに点灯」、「学生会によるエコの話」、「結婚・産星コンテスト」
- くらしき作陽大学** 日時:7月7日(木) 場所:くらしき作陽大学
「玉島地区親子クラブとの交流会」、「トランペットアンサンブル・サマーコンサート」、「キャンドルナイト」、「さくようエコWeek」
- 山陽学園大学** 日時:7月7日(木) 場所:山陽学園大学
「学生寮でのライトダウンとキャンドルサービス」、「東日本応援活動及びエコイベント(場所:NHKひかりの広場)」
- 就実大学** 「東日本応援活動及びエコイベント」 日時:7月7日(木) 場所:NHKひかりの広場
- 中国学園大学**
「軽音楽サークルによるアコースティックライブ」 日時:7月6日(水) 場所:中国学園大学
「ペガサスキャンドル工場見学」 日時:6月22日(水) 場所:ペガサスキャンドル(株)

3) 岡山県との連携活動 (エコナイト開催)

[平成22~23年度実施]

岡山県との連携活動

- (1) 省エネ活動
5月中旬以降各大学でクールビズを実施、冷暖房温度を28℃に設定、不要な家電品の電源を切る等節電活動を9月下旬(各大学により実施期間は異なる)まで行った。
- (2) ライトダウン
午後8時にライトダウンを行い、各大学の施設等を可能な限り消灯した。
- (3) マイ・カー乗るまあday(No my car day)
自動車通勤をしている教職員等は、可能な限り車の利用を控えた。



エコナイト チラシ



エコナイト チラシ

4) 岡山市との連携による「東日本応援およびエコイベント」 (エコナイト開催)

[平成23年度実施]

岡山市との連携による「東日本応援およびエコイベント」 参加者:約110名

実施場所: NHKひかりの広場

参加大学: 岡山商科大学、岡山理科大学、山陽学園大学、就実大学

実施内容: 「“がんばろう日本”のための『エコ活動』」

- (1) 学生教職員92名と一般市民約20名の約110名が参加
- (2) 4大学の学生78名が主体となって、東北地方をハートでマークした日本地図を作成
- (3) エコうちわに市民の方々から応援メッセージを記入したものを東北に138枚送付
- (4) 石巻市でうちわを使用した方からお礼状が送付される
- (5) 就実大学: 東北大学の学会で東日本応援メッセージ入りうちわ約40本を配布
- (6) 参加した学生からアンケート調査を実施



東日本応援活動 記念撮影



東北へ送付したうちわと石巻市から届いたお礼のはがき



東日本応援活動 日本地図作成

5) エコキャンドルの作製工場見学 (エコナイト開催)

[平成22年度実施] エコキャンドルの作製工場見学 学生参加者:19名

参加大学: 岡山県立大学、岡山商科大学、岡山理科大学、中国学園大学

実施内容: エコ教育活動

平成22年6月23日(水)にペガサスキャンドル(株)へ学生19名が訪問



キャンドルの説明を聞く(平成22年度)

[平成23年度実施] エコキャンドルの作製工場見学 学生参加者:29名

参加大学: 岡山大学、岡山商科大学、岡山理科大学、中国学園大学

実施内容: エコ教育活動

平成23年6月22日(水)にペガサスキャンドル(株)へ学生29名が訪問



バスで4大学の学生が交流(平成23年度)



整理整頓について説明を聞く(平成23年度)



エコキャンドル作製過程を見学(平成23年度)



会社・製品説明を聞く(平成22年度)

6) 「地域活性化委員会」 開催実績

(1) 「地域活性化委員会」 開催実績

- ① 平成21年度
第1回目 平成21年3月23日
- ② 平成22年度
第1回目 平成22年5月20日
第2回目 平成23年2月25日
- ③ 平成23年度
第1回目 平成23年5月31日
第2回目 平成24年2月予定

(2) 平成23年度 地域活性化委員会運営委員名簿

大学名	氏名	所属・職名
岡山大学	三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科教授 生涯学習・教育連携部門長
	小林 祐也	学務部学務企画課
岡山県立大学	岡崎 順子	保健福祉学部教授
岡山学院大学	三原 和也	総務課企画広報班 主任
岡山学院大学	宮崎 正博	人間生活学部教授
岡山商科大学	大崎 鮎一	副学長、産学官連携センター長
	多田 憲一郎	経済学部学部長
岡山理科大学	荒木 圭典	知能機械工学科准教授、学務部次長
	猪口 雅彦	生物化学科講師、学務部次長
川崎医科大学	大槻 剛巳	学長補佐、衛生学教授
	松島 眞浩	公衆衛生学講師
川崎医療福祉大学	西本 哲也	ボランティアセンター副センター長 健康 体育学科講師
環太平洋大学	勝田 麻津子	乳幼児教育学科長 実践教育研究セン ター長
吉備国際大学	井勝 久喜	環境経営学部長、教授 教育研究支援センター所長、産業科学技 術学部教授
倉敷芸術科学大学	小山 悦司	学務部参事
	田辺 昇	庶務部参事
くらしき作陽大学	河村 敦	食文化学部准教授
山陽学園大学	澁谷 俊彦	総合人間学部生活心理学科教授
就実大学	鈴木 利典	薬学部 教授
	飯田 哲司	情報ビジネス学科教授、地域連携セン ター所長
中国学園大学	中田 周作	子ども学部講師
	新谷 貴子	総務課課長補佐
ノートルダム清心女子大学	加藤 正春	人間生活学部教授

「地域発信力育成」のまとめと課題

1) 遠隔講義の取組

- (1) 各大学における遠隔講義のカリキュラム内での位置づけ
- (2) 参加大学としての遠隔講義への取組
 - ① 講義時間の調整
 - ② 共通講義の開発
 - ③ 非常勤講師における講義の実施
- (3) 使用しやすい機器の整備

2) 地域活性化の取組

- (1) 大学の有する教育・研究による地域での共同発信活動
- (2) 学生参画型地域発信活動について
 - ① 一般市民
 - ② 子供
 - ③ 研究テーマ(エコ活動)
 - ④ ボランティア活動

3) テレビ会議システムの利用

- ① 大学間会議等での使用
- ② 地域、他県のサイトとの接続と利用

今後の展開

大学コンソーシアム岡山への継承

H24年度以降の将来構想について

大学教育連携センター長 木村 宏

第3回岡山オルガン 連携評価委員会

(5) 平成24年度以降の将来構想について

- 将来構想委員会の経過
- 大学コンソーシアム岡山への事業継承案
- 平成24年度の年間活動スケジュール

大学教育連携センター
木村 宏

将来構想委員会の設置と目的

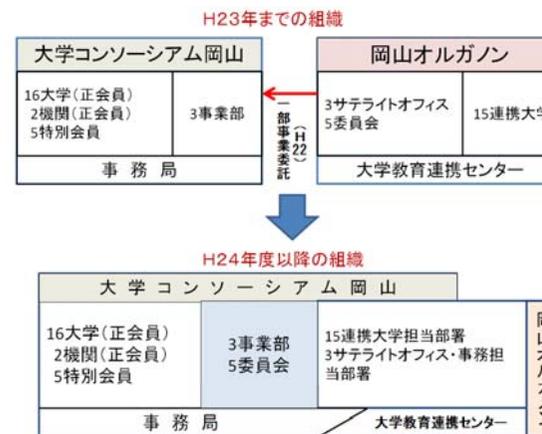
1. 設置趣旨:
大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに基づく構成大学間の連携取組事業(以下、「連携取組事業」という)に関し締結した「**大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムの共同実施に関する協定書**」第2条に基づき、将来構想委員会の組織及び運営に関し、必要事項を定めるものとする。
2. 基本方針:
将来構想委員会は次に掲げる事項を協議し、大学コンソーシアム岡山に対して提案を行うものとする。
 - 連携取組事業における補助期間終了後の展開方策
 - 連携取組事業における補助期間終了後の財政的措置
 - その他目的を達成するために必要な事項
3. 設置時期:
平成22年9月10日 大学コンソーシアム岡山代表者会議で決定
平成23年1月26日 準備会議
平成23年2月16日 第1回会議

将来構想委員会の審議経過

会議	日付	審議内容等
準備会議	H23年1月26日	将来構想委員会の設置に関わる事項の確認と決定
第1回	H23年2月16日	事業の統合、遠隔教育の継承体制について検討
第2回	H23年3月4日	事業継承に伴うランニングコストおよび経費負担の検討
第3回	H23年4月19日	事業の再編成、経費負担、事業継承体制について検討
第4回	H23年5月17日	事業の再編成、経費負担、事業継承体制について検討
第5回	H23年8月8日	継承組織、経費負担について検討
第6回	H23年9月5日	事業継承原案(第1版)を決定、岡山オルガン代表者会議に提案するが、大学コンソーシアム岡山の事業全体との整合性について見直しが求められ、保留となる。
第7回	H23年11月1日	原案(第1版)の予算、組織、スケジュール項目の再検討
第8回	H23年11月25日	事業継承原案(第2版)を決定。大学コンソーシアム岡山企画会議、岡山オルガン代表者委員会、大学コンソーシアム岡山運営委員会にて第2案を了承し、大学コンソーシアム岡山の平成24年度事業計画および予算案に反映させた。

大学コンソーシアム岡山への事業継承案-1

1. 事業継承後の組織形態



- 事業部の委員会組織:
- (1) 大学教育事業部
 - ・単位互換委員会
 - ・対面・遠隔教育委員会
 - (2) 産学官連携事業部
 - ・地域貢献委員会
 - ・就職支援委員会
 - (3) 社会人教育事業部
 - ・社会人教育委員会

- 会議システム:
- (1) 代表者会議
 - (2) 運営委員会
 - (3) 企画会議
 - (4) 各事業部委員会

大学コンソーシアム岡山への事業継承案-2

2. 継承する事業

平成24年～26年までの事業内容を決定。

(1) 遠隔教育事業

- ライブ型とVOD型遠隔教育の継続実施

ライブ型科目13科目、VOD型科目17科目の配信を予定

(2) 共同FD・SD事業

- FD活動の情報交換を行うイベント等の実施
- 社会人向け教育活動である「吉備創生カレッジ」の特別講座として共同SD事業を実施

(3) 地域活性化事業

- 地域活性化イベント「日ようび子ども大学」を継続実施

(4) 学生交流事業

- 「エコナイト」事業の継続実施

(5) 社会人基礎力育成事業

- 「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

第3回連携評価委員会

5

大学コンソーシアム岡山への事業継承案-3

3. 経費負担案

(1) 事業推進費:

事業遂行に必要な経費
(平成24年度予算額)

各連携校の負担額:

150,000円＋
50円×在学学部生数

- ・遠隔教育事業関係の人件費は、遠隔教育担当職員1名分の経費を含む。
- ・平成24年度に事業推進費の繰越額が生じた場合は、翌年度に繰り越し、この額を含めて予算計画を策定する。

科目	明細	小計	合計
1. 収入の部			
1 事業収入		4,023,000	4,023,000
連携大学事業費収入	4,023,000		
2 その他の収入		0	
事業収入		0	
2. 支出の部			
1 事業費			3,989,200
遠隔教育事業関係		3,390,000	
遠隔教育担当者人件費	2,772,000		
VOD撮影・編集補助員人件費	168,000		
広報費	450,000		
地域活性化イベント		259,200	
日ようび子ども大学事業費	259,200		
エコナイト事業費		100,000	
広報費等	100,000		
FD・SD活動経費		180,000	
広報費等	100,000		
外部講師謝礼	80,000		
社会人基礎力養成シンポジウム		60,000	
広報費等	60,000		
2 通信関係		33,800	33,800
ドメイン使用料	3,800		
WEBサーバ等使用料	30,000		

第3回連携評価委員会

6

大学コンソーシアム岡山への事業継承案-4

(2) 遠隔教育システム維持費

補助金を活用して導入した遠隔教育システムの維持費用は、事業推進費に含めず、岡山オルガノン連携校が均等に負担する。

分類	項目	月額	年額	備考
TV会議	TV会議システム合計	18,183	218,196	
	フレッツ・グループ	3,920		20拠点分
	フレッツサービス	8,085		学校向け割引適用
	MCU保守費	6,178		岡山理科大学契約分の負担額
VOD	VOD型教育システム合計	10,849	130,188	
	まなびオルガノンサーバ維持費	2,099		
	専用線サービス	2,450		
	LMSシステム維持費	6,300		
合計		29,032	348,384	

- ・遠隔教育システム維持費は平成26年度までは継続することを想定し、それ以後の計画は平成26年度に再検討する。
- ・金額は平成23年度実績に基づき算定した額である。

第3回連携評価委員会

7

事業規模の比較

1. 事業規模の比較

(千円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総額	83,525	69,646	57,262	9,249
設備備品費	56,535	26,511	3,827	0
旅費	3,540	2,021	2,306	0
人件費	8,560	22,599	23,453	2,940
事業推進費	14,890	18,515	27,676	6,309

- ・事業継承に伴い、大学教育連携センターおよび3サテライトオフィスで採用していた、コーディネータおよび事務補佐員を大幅に減員しなければならない。
- ・各種のイベント等の実施に使用できた補助金が無くなるので、全て自前で事業推進を行わなければならないので、必然的に厳選した事業の継承が求められる。

第3回連携評価委員会

8